

平成 28 年度 第 2 回猪名川町総合教育会議 会議録

平成 29 年 3 月 23 日（木）開催

企画総務部企画財政課

平成 28 年度第 2 回猪名川町総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成 29 年 3 月 23 日（木） 開会 16：30～
2. 場 所 猪名川町役場 第 2 庁舎 2 階 委員会室
3. 出席者 福田町長・中西教育長・中村委員・足立委員・森口委員
企画財政課：山田企画総務部長・和泉企画財政課長・前田主幹・
加治主事
教育委員会：真田教育部長・大嶋教育振興課長・石上学校教育課長
井ノ上参事・草薙参事
4. 付議事項 (1) 報告事項
第 1 号 学校園のあり方について

開会（16：30）

（司会：企画財政課長）

皆さん、こんにちは。

定刻となりましたので、ただいまより、平成28年度第2回猪名川町総合教育会議を開催させていただきます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、企画財政課長 和泉と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

なお、本日、福西委員におかれましては、所要のため欠席となっておりますことをご報告いたします。

議事に入る前に、本会議は、「猪名川町総合教育会議設置要綱」第6条の規定により公開となります。本日は、2名の方より傍聴の申し出がありました。本日の議題は、「報告事項第1号 学校園のあり方について」ですが、説明で用います資料等には、非公開とすべき情報は含まれておりません。傍聴者の入室を許可するか、お諮りいたしますので、よろしくお願いいたします。

（町長）

事務局より、傍聴について説明がありました。原則公開の会議となりますので、傍聴を許可することとしますが、委員の皆さまよりご意見はありませんか。

— 委員より：異議なし —

それでは、傍聴を認めます。傍聴希望者の入室を許可します。（傍聴希望者着席）

（司会：企画財政課長）

まず初めに、開会に際しまして、福田町長より挨拶を頂戴いたします。

（町長）

皆さん、こんにちは。

平成28年度第2回猪名川町総合教育会議の開催に際しまして、一言、ご挨拶申し上げます。

昨年、5月に第1回を開催させていただいた際、「学校園のあり方について」皆様と協議させていただきました。その際にも申し上げましたが、『猪名川町人口ビジョン』においては、今後、我が町の人口は、減少していくことが予想されており、併せて子どもの数も減ってまいります。

そのような状況の中、猪名川町で学び、育つ、子ども達にとって、より良い教育とは何か、子育ての町「猪名川町」としての目指すべき将来像について、教育委員会としての検討をお

願いし、検討の経過を町行政とも情報を共有することで、今後のまちづくりに活かしていくことを確認させていただきました。本日は、その経過を伺い、次年度以降の方向性についても確認できればと思います。

平成 29 年は、先の施政方針でも申し上げましたが、私の 2 期目の町政を総括する年となります。これまで子育て支援の充実を目指し、教育、医療、福祉など様々な分野において取り組んでまいりましたが、新年度は、更に高齢者の健康寿命、生きがいということにも重点をおいて取り組んでまいります。子どもから高齢者まで誰もが住みよい町「猪名川町」の実現は、持続可能なまちづくりを実現するための大事な視点であり、本日の総合教育会議も子どもの教育環境の向上はもとより、地域コミュニティにおける、子どもの育成、見守りなども意見交換ができればと思います。

また、平成 29 年度末には待望の新名神高速道路が開通いたします。新名神高速道路を、まちづくりの転機と捉え進めてきた産業拠点地区の整備も、いよいよ本格化してまいります。これからの、猪名川町を見据えた際には、更なる可能性への取り組みを行っていかねばなりません。現在、道の駅いながわの機能拡充に向けての検討も進めているところで。人口減少、少子高齢化など本町の環境は依然として厳しいものはありますが、これからの未来を担う子ども達にとって、夢を与えることができるようなまちづくりを進めたいと思うところです。

甚だ簡単ではありますが、開会にあたりましての私の挨拶とさせていただきます。

(司会：企画財政課長)

ありがとうございました。

以後の進行につきましては、猪名川町総合教育会議設置要綱第 4 条の規定に基づき、町長が議長となりますので、進行のほどよろしくお願いします。

2. 報告事項

(議長：町長)

それでは、以後の進行につきましては、議長である私のほうで進めさせていただきます。

本日の会議では、報告事項として「学校園のあり方について」となります。事務局より報告を求めます。

(事務局：企画財政課長)

失礼します。

説明の前に資料の確認をさせていただきます。資料に関しては、事前にお送りしていますが、落丁等の不備があればお申し付けください。

報告事項「第 1 号 学校園のあり方について」の資料ですが、別冊資料 1 検討経過、別冊資料 2 猪名川町立学校園のあり方に関するアンケート調査第 1 次集計結果となります。

資料の方は揃っているでしょうか。

資料の説明は、教育振興課長より行いますので、よろしくをお願いします。

(教育振興課長)

失礼します。報告事項として、学校園のあり方について、資料に基づき説明いたします。

まず、別冊資料1の検討経過でございます。平成28年5月に開催された第1回総合教育会議において、町の教育の将来に関して行政、教育委員会が情報を共有しながら、教育委員会としての教育のあり方を整理することが確認され、「猪名川町立学校園あり方検討委員会」の設置や、地域意見交換会などを開催し、現在検討を進めているところでございます。

1点目として学校園あり方検討委員会からの経過報告でございます。

検討委員会は、平成28年6月20日に設置され、次の2項目について教育委員会からの諮問に基づき検討しています。

1点目は、ア 本町や地域の特性を踏まえた町立学校園の規模・配置の適正化に関する基本的な考え方に関すること

2点目は、イ 町立学校園の規模・配置の適正化のための具体的方策に関すること となっております。

これまでの検討に係る経過として1ページから2ページにかけて一覧表により整理していますが、あり方検討委員会は、6月、11月、2月の合計3回開催されました。教職員との意見交換会は小学校、中学校を中心に10回にわたって、地域の皆さんとの意見交換会は7月から教育委員会の主催、地域の皆さんの主催と合わせて10回にわたり開催し、260人余りの出席があったところです。

2ページをご覧ください。12月には、検討委員会での検討、地域意見交換会に加え、より多くの皆さんのお考えを把握するためアンケートを実施しました。その1次集計結果については、後程ご説明申し上げます。

また、3月9日からは第2回の地域意見交換会を昨日まで4回にわたり開催し、あわせて90人の参加者があったところです。

(2) 現状と今後の推移については、第1回検討委員会の資料に基づき、これまでの児童生徒園児の推移と今後の見込みを掲載しています。

3ページのイ学校規模の小学校の項目で、大島小学校と楊津小学校について、転入出や特別支援学級などの在籍状況によっては、複式学級となる可能性がある。としていますが、最新の情報では、平成30年度に楊津小学校で複式学級となる可能性があることを、検討委員会に報告しております。

また、4ページの幼稚園の項目では、つつじが丘幼稚園は、猪名川幼稚園の分園として10年の開園でありましたが、同園の園児減少に伴い分園措置の終了を決定する必要がある。としています。

(3) 第2回検討委員会での検討結果について掲載しております。第2回検討委員会では、学校園を校種ごとに存置、再編それぞれの効果と懸念される課題、また、その対応策について

て、限られた時間内で多くの委員から意見をいただくため分散会により話し合い、まとめていただいた内容について掲載しています。

アとして小学校を存置した場合について、左側に期待できる効果を白丸印で、右側に懸念される課題を黒丸印で、その下に課題の対応策を白四角印で、記載しています。次の 5 ページをお願いします。次の表は小学校を再編した場合の内容となっております。存置した場合と同様に左側に期待できる効果を白丸印で、右側に懸念される課題を黒丸印で記載をしています。

その次には中学校の存置した場合、再編した場合、次のページ 6 ページには、幼稚園の存置した場合と再編した場合について、記載しています。

7 ページの(4) 今後の検討課題についてでございます。検討に際しては「存置ありき」「再編ありき」の議論ではなく、教育的観点を中心として地域コミュニティの核としての観点も大切にしながらアンケート結果も踏まえ議論していくこととしています。ここでは存置する場合、再編する場合、それぞれの課題を挙げ、その課題を最小限に、また効果を最大限のものとしてどのように可視化するか、全町的な問題として検討し、猪名川町の教育がよりよいものに、また、他の自治体に誇れる内容を持てるものにするために、実りある議論を進めていくことについて、検討委員会の思いとしています。

また、検討委員会の検討と並行して方針・方策の決定を行う町教育委員会が、強力な指導力と支援策をもって、地域との協働関係を生かした学校づくり、魅力あるカリキュラムの導入、学校・園づくりを推進することを求めています。

2 第 3 回検討委員会の検討内容の報告でございますが、校種ごとに分かれ、分散会で意見交換をし、発表していただきました。

設問は 3 問とし、1 問目として、ア アンケート結果も踏まえ、存置・再編した場合の効果や課題等について再度検討いただき、存置した場合の期待できる効果を左に、懸念される課題を右に記載しています。8 ページには再編した場合についても同様に記載しています。

2 問目は、イ 今後も子どもの数の減少等、教育環境は変化することが予想される中、学校園がどのような状況になった場合に、あらためて学校園のあり方等について検討すべきか。について、9 ページの 3 問目は、アンケート結果の中で、興味深い結果は？また、検討委員会で検討したほうが良いと思う結果等は？について協議していただき、発表のあった結果を記載しています。この第 3 回の検討経過についても、第 4 回の検討委員会で確認を頂いたのち、ホームページ等により公表する予定でございます。

続きまして、アンケート調査の第 1 次集計結果についてご説明申し上げます。別冊資料 2 をご覧ください。時間の都合もありますので、概要について説明させていただきます。

1 ページをご覧ください。調査概要についてです。(2) の調査時期については 12 月 1 日から 27 日までの約 1 ヶ月間実施しております。(3) 調査の対象としては、全体で 6,064 世

帯に依頼し、うちお子さんをお持ちの保護者世帯が合計で2,869世帯、その他の世帯が3,195世帯で、割合としては保護者世帯が47.3%、その他世帯が52.7%となっています。

(6)の回収状況ですが、配布数6,064に対して3,596件の回答をいただきました。回収率としては、59.3%となっております。

2ページをご覧ください。調査結果についてですが、今回は第1次集計結果として、全設問の単純集計結果のほか、14問についてクロス集計をしております。

資料の見方についてですが、6ページをご覧ください。「複式学級について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか？」という設問ですが、6ページにあります円グラフが単純集計でございます。複式学級は避けるべきであるというのが26.9%、問題だがやむを得ないが34.4%、問題ないが14.3%、わからないが22.8%という結果となっております。

これを、子どもの状況別と居住小学校区別にクロス集計したものが7ページになります。上の子どもの状況別のグラフをご覧ください。上から全体の回答、①町立幼稚園の園児から3行下までが未就学の子どもを持つ保護者の回答、⑤として小学生、⑥として中学生の子どもを持つ保護者の回答となっております。下から2行目は、未成年の子どもはいない世帯の回答となっております。ただし、小学生と中学生のお子さんがある世帯については、小学生と中学生の両方の分類でカウントしていることとなります。これで見ますと、一部を除いて、複式学級は問題だが、やむを得ないという回答が30%を超えていますが、一方で、町立私立の幼稚園児をお持ちの世帯では、複式学級は避けるべきであるという回答が、30%を超えている状況です。

次に下段の居住小学校区別を見てみますと、もともと上に全体の回答、その下に各小学校区ごとの回答をとりまとめています。猪名川小学校区にお住まいの方の回答ですが、回答数517のうち、26.7%の方が複式学級は避けるべきである、32.9%の方が問題だがやむを得ない、13.5%の方が複式学級でも問題ない、25.3%の方がわからない、1.5%の方が無回答という結果となっております。それ以降、各小学校区ごとに整理しておりますので、ご照覧ください。

次に8ページをお開きください。設問7の「児童数の少ない小学校を現行のまま存置する場合には、どのような学校づくりをすべきだと思いますか。」です。こちらについては、複数回答が可能な設問となっており、単純集計として、横棒グラフで集計しています。

最も回答が多かったのが、2つ目の項目「他校の児童との交流や合同学習などにより多様な考え方に触れる機会を増やす」で回答された方の67.2%が選択しています。

9ページをお願いします。設問8の「小学校の統合」に関する設問でございます。9ページには単純集計を、10ページには「子どもの状況別」「居住小学校区別」のクロス集計を表示しています。

11ページをお開き願います。設問9の「小学校を統合するとしたら、何を重視すべきだと思いますか。」です。11ページについては、複数回答の単純集計結果となっております、87.8%

の方が「通学バスの運行などにより通学が負担にならないようにする。」を選択されています。

次のページ 12 ページではこの設問について「子どもの状況別」「居住小学校区別」のクロス集計を表示しています。それぞれの項目ごとに網掛けをしています。もっとも多くの方が選択された項目を濃い網掛けに、次点の項目を薄い網掛けとしています。

次に 13 から 14 ページにかけて設問 10 として、「大島小学校、楊津小学校、松尾台小学校の存置や統合について」の設問です。13 ページでは単純集計を 14 ページでは、「子どもの状況別」「居住小学校区別」のクロス集計を表示しています。いずれかの項目が大きなウエイトを占める結果とはなっておらず、様々な思いがあることがわかる結果となっています。

15 ページをご覧ください。ここからは中学校に関する設問となります。次に 17 ページをお開きください。設問 14 の「免許外指導について」です。免許外指導とは、教員が免許を有しない教科について臨時的に指導することですが 17 ページでは単純集計を 18 ページでは、「子どもの状況別」「居住小学校区別」のクロス集計を表示しています。

20、21 ページをご覧ください。設問 16 の「学校選択制」についてです。こちらも単純集計とクロス集計を表示しております。一部の校区を除いて「現在の校区の中学校へ行きたい」を選択された方が過半数を占めています。

次に 23、24 ページにかけて、設問 18 として「中学校の統合」について表示しております。ここでも小学校と同様に、いずれかの項目が大きなウエイトを占める結果とはなっておらず、様々な思いがあることがわかる結果となっています。

27 から 28 ページにかけて、設問 20 として「六瀬中学校と中谷中学校の存置や統合」について表示しております。ここでもいずれかの項目が大きなウエイトを占める結果とはなっていません。

次に 29 ページからは幼稚園に関する設問です。32 ページは、設問 23 として「幼稚園のクラス数・園児数」についての単純集計を表示しています。

34、35 ページは、「つつじが丘幼稚園の期間限定設置」に関する設問です。35 ページ、居住小学校区別のグラフの上から 4 行目、つつじが丘小学校区の回答結果では、60.1%の方が期間限定設置のことを知っているという回答されています。

36 ページをご覧ください。設問 26 の「六瀬幼稚園と松尾台幼稚園の存置、統合」について表示しています。

以上がアンケート結果となります。

最後に、今回は速報結果として設問の一部についてのみのご報告ですが、その他の設問や詳細な結果の分析、また、その他の記述部分の回答につきましては現在、整理してとりまとめており、4 月以降に行政報告や町HP等によりご報告したいと考えております。説明は以上です。

(議長：町長)

ありがとうございます。事務局より説明がありました。

学校園のあり方については、これまでも教育委員会での協議が成されており、また、私の方も教育長より報告を聞いておりますが、改めて総合教育会議の場でお聞きしたところです。

教育委員会では、地域での説明会や意見交換会など大変だったことと思います。これから、子どもの数が減ってくる中、一定の教育水準を維持しながら、小学校、中学校、高校と進むにつれて、他の地域の子供達との関係も出てくると思います。

一方では、各地域、学校が特色ある教育環境を整備いただいているなかで、学ぶことの重要性も考えなければなりません。単純に、子どもの数が減った、増えただけの議論ではありませんので、慎重に検討していかなければならないと思います。

委員の皆さまから、何かご意見等はございませんでしょうか？

(教育長)

失礼します。先ほどの教育振興課長の説明の補足を含めて一言申し上げたいと思います。

今後の進め方について申し述べておくべきかと思えます。スケジュール的な目途といたしましては11月、秋には最終の検討委員会からの答申をお受けしたいと思っております。それを受けて教育委員会としての一定の方向性を示していかないとならない、それが29年度末になるかと思えます。そういった一定の目途を立てながら検討委員会での議論を進めていただき、教育委員会としても決定していきたいと思っております。

ただ、先般の意見交換会の中でも、あり方検討委員会での検討項目として「こうした視点も必要なのではないか」というようなご提言をたくさん頂戴しています。そういったことも検討委員会にお諮りしながら検討を進めていくこととなります。従いまして検討委員会の回数を増やししながら、厚みを増しながら検討委員会としての会議を行っていく必要があると思っております。

また、様々な検討項目がある中で今、検討委員会にお示ししていないと感じていることがいくつかあると思えます。その中で一番大事なこととして、住民、保護者の皆さん方からは見える範囲での学校の姿が見えているわけですが、かたやそれを運営している学校側の状況がどうなのかを検討委員会の皆様にも把握していただく必要があるかと思えます。学校長として、園長としてどういう風な工夫をしており、学校運営についてどういう問題点があるのか、あるいはどういう良いところがあるのかという評価を、それぞれ学校評価としてはしておりながら、実際に検討委員会の中で学校長の思いをお伝えしている場面がございますので、是非ともそういったことも含めて検討委員会の中で十分な議論をする材料として提供させていただけたらと思っております。そういったことで検討委員会そのものにつきましては若干回数を増やしていく必要があると考えております。意見交換会には他の委員さん方もご出席いただいたり、あるいは教育委員会の中でも様々な協議を行ったりしてお

りますので、また他の委員からご発言があるかと思いますが、ひとまず私からは以上でございます。

(議長：町長)

はい、分かりました。他にありませんか？

(中村委員)

学校のあり方を考えることというのは町全体にとっても、今後のことを考えるということでもとても大事なことだったと思います。もちろん住民一人ひとりがまずは他人事ではなく自分のこととして、子どもの有無、学校に行っている行っていないという考え方ではなく、学校に行っている子どもたちを持たない人たちにもアンケートをとって意見を求めていく形は大事なことだったと思っています。

教育長からもありましたように検討委員会の方も分厚く話し合っただきながら11月を目途に答申をいただくというところ、来年度末を目途に教育委員会としても話をしていく。その中でも学校のあり方そのものは、やはり町のあり方だと思います。ですので教育委員会だけではなく町長部局とも密に話し合っ、皆様にとって子どもたちにとってより良い猪名川町を作っていく検討をしていきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

(議長：町長)

ありがとうございました。他にありますか？

(足立委員)

失礼いたします。あり方意見交換会に参加させていただきまして感じたことですが、皆様の熱い思いがひしひしと伝わってまいりました。そして不安や不満、いろいろあるかと思いますが危機感を感じておられるということがよく分かりました。

六瀬中学校区の皆さんが中谷中学校区や猪名川中学校区の意見交換会にも参加していただき、その現状をお伝えくださったということで、猪名川町全体の問題であるということも認識させてくれたのではないかと考えております。また、お互いの地域の良さを話し合い確認できたことも良いことだったと考えております。こういう良い環境の中で話を進めていくことは良い結果に繋がるのではないかと考えております。意見が言いやすい場であれば良いと考えております。以上です。

(議長：町長)

3人の委員さんから良いご意見をいただきました。それを踏まえて私の方から一つ確認させていただきたいと思っております。

教育水準を維持していくためには、その学校に通う子どもの数というものは、一つの指標になるのではないかと思います。町の北部地域にある小学校では、生徒の数が減少してきており、複式学級になることも予想されていますが、学校がもつ役割として、教育は当然ですが、地域のコミュニティという一面もあると思います。

文部科学省では、コミュニティ・スクールの提言もされていますが、全国及び県下の動向、並びに本町におけるコミュニティ・スクールの検討は、どのようにされているでしょうか。

(学校教育課長)

コミュニティ・スクールについて説明させていただきます。平成16年度に制度化されたコミュニティ・スクールの指定校は、徐々に増加しておりますが、平成28年4月段階で、全国で2,806校であり、全体の9%にとどまっております。山口県のように全校100%をコミュニティ・スクールに指定したところがある一方で、兵庫県においては実施率が低く、4市14校であり、全体の1%という状況でございます。最新の近隣の状況では、伊丹市が27年度に県下で4番目に4校を指定しました。伊丹市は28年度に6校を指定し、5か年計画で平成31年度末までに全校を指定する予定であると聞いております。他には、芦屋市と三田市が国の規定するコミュニティ・スクールとは少し違う形で独自のコミュニティ・スクールを導入しているとのことでございます。

国においては、平成28年1月に「次世代の学校・地域」創生プランを公表し、コミュニティ・スクールの更なる推進に向け、支援策を講じているところでございます。さらに導入を促進するために、29年4月の法律改正により、各教育委員会に学校運営協議会の設置の努力義務が課せられることとなっております。新たな国の動向を見ながら、本町も導入に向けた準備を進めていきたいと考えています。

本町においては、今年度から、コミュニティ・スクールの導入準備のための下地づくりを開始しています。校園長会において、国からコミュニティ・スクール推進員を招へいし、まずは校園長を対象に研修会を行いました。これからの時代に求められる学校、育成すべき子ども像、地域貢献等について発想を新たにし、各校園長に対してコミュニティ・スクールの意義を十分考えさせたところであります。

今後は、コミュニティ・スクールの意義を十分踏まえ、町としてまずはモデル校を指定して、主体的にコミュニティ・スクールを導入することを検討しているところでございます。以上で、説明を終わります。

(議長：町長)

ありがとうございます。

コミュニティ・スクールを今後、積極的に取り入れていくかということは、今後も協議していく必要はありますが、委員の皆さまからも、コミュニティ・スクールに関してご意見など、ございませんでしょうか。

(森口委員)

猪名川町では過去に議会でもありましたが、コミュニティ・スクールに関しましては、調査と研究を進めてまいりたいと委員会の中でも話しておりまして、特に猪名川町の場合は人口の減少もありますが、地域の核となりますコミュニティ・スクールは非常に重要であると思います。今後、調査研究を進めていきたいと考えており、年度明けの6月の5日、6日におきましては、特にコミュニティ・スクールの先進地である山口県の萩市に視察にまいりまして研究をしていきたいと思っております。

(議長：町長)

ありがとうございます。コミュニティ・スクールに近いものが、楊津や大島でも生まれているわけですが、これからも地域の学校ということで大事な考え方かと思います。

他にありませんでしょうか？

— 委員より：特になし —

(議長：町長)

それでは、他にご意見も無いようですので、本日予定していました案件は以上となりますが、事務局から、何かありますか？

— 事務局：特になし —

(議長：町長)

特に無いようですので、これを持ちまして、平成28年度第2回猪名川町総合教育会議を終了いたします。本日は、ありがとうございました。

(司会：企画財政課長)

ありがとうございました。本日の総合教育会議は以上でございます。

次回開催については、協議案件が生じた場合となっておりますので、事務局より改めて開催案内を差し上げますので、よろしく申し上げます。本日は、大変、お疲れ様でした。

閉会 (17:30)